横須賀日日新聞
YOKOSUKA NICHINICHI SHIMBUN
市民記者がつくる
発行所：神奈川新聞横須賀支社 〒238-0004 横須賀市小川町21-9 TEL.046(822)2020 FAX.046(823)3845 yokosuka@kanagawa-np.co.jp 第45号
神奈川新聞のご購読申し込みはフリーダイヤル 0120-446-709。1週間のお試し読みも受け付けています。購読料1ヵ月3,189円
平成27(2015)年12月6日発行

INDEX

2 近代化の主役に焦点
3 トンネルに丸太?!
4 きょう発走 車椅子マラソン

横須賀日日新聞　第45号
2015年12月6日

あなたが地域の主人公　8

テーマ：若者に寄り添う人々
（悩みを共有し共に歩む）

※許可を得て掲載しています。

あなたが地域の主人公 8

若者に寄り添う人々

横須賀を舞台にした「きっときみに届くと信じて」（金の星社）という本を読んだ。著者の吉富多美さんは苦悩する若者に寄り添い、温かい目で彼らを描いてきた作家だ。いじめに悩む中学生の苦悩と同時に未来への希望も伝わって来た。

吉富さんとは3年前、横須賀で「朗読劇ハッピーバースデー」を上演する際に一緒に働いた。吉富さん原作の児童虐待といじめをテーマにした劇で、願いを共有する横須賀の保育園や子育て支援NPO、行政の方々等と100人実行委員会を設け、一緒に作り上げた。

悩みを共有し共に歩む

声優さんの声の力、会場のすすり泣き、そして重いテーマにもかかわらず、明るい表情で会場を後にする来場者の姿が印象的だった。

上演後、YMCAでは賛同者の方々と細々とであるが、児童養護施設の支援を続けてきた。学生たちを「しらかば子どもの家」（長瀬3丁目）に派遣するプロジェクトだ。大学生が子どもたちのお兄さんお姉さんのように一緒に遊ぶ。シンプルな企画だが、3年間で延べ300人近い学生が参加してくれた。子どもたちも楽しみに待っているし、大学生にとっても学びの場となる。

今、子どもたち・若者の置かれている状況は厳しい。いじめ、虐待、不登校、引きこもり、発達障がい、貧困…。どれをとっても根深く解決は難しい。

横須賀・鎌倉エリアで不登校、引きこもりなどの子ども・若者を支援している七里ケ丘子ども若者支援研究所の滝田衛さんにお話を聞いた。「厳しい環境に置かれた若者に一番必要なものはなんでしょう」

被災地と横須賀の学生による「夢バンド」演奏会
=2014年12月28日、ショッパーズプラザ横須賀

滝田さんは「親や友人、社会になじめない子どもたちは孤立を深めます。そこには彼らの悩みを共有し寄り添う大人の存在が必要です。『それでいいよ。わかったよ』と共感し気づきを伝えてあげることが必要なんです」と語られた。

前述の「きっときみに届くと信じて」には、若者の悩みに寄り添うラジオのパーソナリティが出てくる。吉富さんは横須賀のFMブルー湘南の灯織（おり）さんにインタビューしてイメージを膨らませたという。灯織さんは夫君とともに東日本大震災で被災した若者と音楽を通してつながる活動「夢は叶（かな）うプロジェクト」を続けている。彼女もまた若者に寄り添い共に歩む一人だ。

子ども・若者のさまざまな苦悩に寄り添う大人が一人でも増えてほしい。

（横須賀市立市民活動サポートセンター館長・高橋　亮）